



新横浜リハビリテーション病院

言語聴覚士

当院の紹介

当院は、2007年に開院した **126床の回復期リハビリテーション病棟**を有する病院です。失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害の患者様に対して、在宅復帰に向けてスタッフ一同、サポートを行っています。嚥下造影検査（VF）や嚥下内視鏡検査（VE）、電気治療機器も積極的に行っています。また、**2023年9月**に新たに**回復期リハビリテーション病棟42床**、**地域包括ケア病棟42床**、緩和ケア病棟20床が増床されました。地域包括ケア病棟では、急性期病院からの転院、自宅や施設からの入院に対応していて、当院**嚥下外来**とも連携しています。

現在、**2-3名の言語聴覚士（新卒・既卒）を募集**しています。感染症対策を講じて、**施設見学も随時行っています（土、日可）**。また、**ZOOM**を利用したりリモートでの施設見学も行っていますので、**回復期**、または**地域包括ケア**や訪問リハビリに興味がある方はぜひご連絡ください。

※既卒者：2024年夏以降の入職も可能です。

連絡先：reha@syr-h.com（リハビリ科・君島宛）

当院の紹介（写真）



リハビリテーション室



言語療法室



新棟・リハビリテスペース



新棟・言語療法室

スタッフ紹介

1年目～22年目まで、計**16名**のスタッフが在籍しています。出身校は下記の通りで、関東以外のスタッフも在籍しています。

- 北里大学
- 神戸医療福祉専門学校
- 西武学園医学技術専門学校
- 仙台医療福祉専門学校
- 茅ヶ崎リハビリテーション専門学校
- 帝京平成大学
- 東京医薬専門学校
- 名古屋文化学園医療福祉専門学校
- 新潟医療福祉大学
- 日本福祉教育専門学校
- 臨床福祉専門学校

卒業生から一言

西武学園医学技術専門学校卒 2021年入職



本病院の特徴として、「1症例2担当制」があります。2人の担当で連携を取り、患者様を手厚くサポートする姿勢が、入職の決め手になりました。また、先輩方に訓練の指導や、講習会、勉強会をしていただき、日々研鑽を重ねています。そして、1年目は「新人プログラム」といった形で定期的に講習を行い、他部門の分野についても学んでいます。

北里大学卒 2021年入職



患者様ひとりひとりに寄り添ったリハビリがしたいと思い、回復期病院への就職を決めました。当院は新人プログラムも充実しており、先輩方から臨床に必要な知識を丁寧に教わることができます。また、緑の多い庭園や広さのあるリハビリスペースなど、患者様がリハビリしやすい環境が整っていると思います。

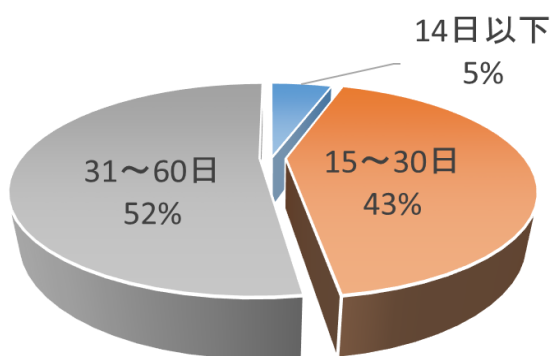
日本福祉教育専門学校卒 2021年入職



学生の頃、感染症の影響で臨床実習に行くことができませんでした。しかし、この病院に入職してから、先輩方が勉強会を開いてくださったり、検査の練習を一緒に行ってくださいたりと、沢山サポートしていただけているので、安心して仕事をすることができています。

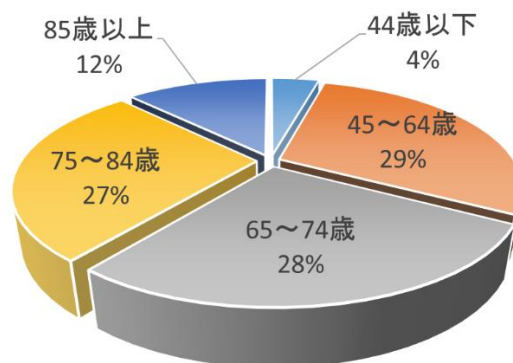
S T介入患者様の特徴

1年間にS Tで介入した患者様（172名）の特徴をまとめたものです。



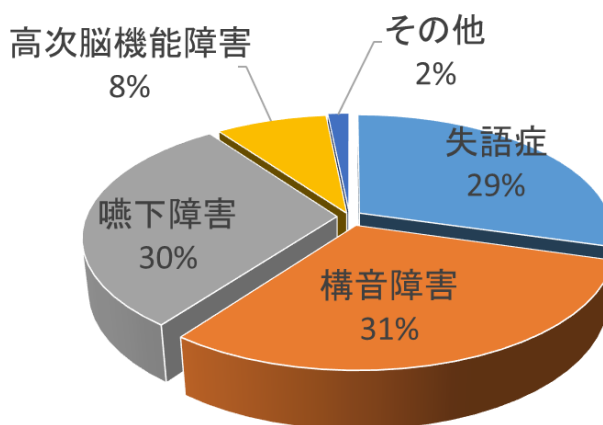
平均 32.6 日

発症から入院までの日数



平均 69.4 才

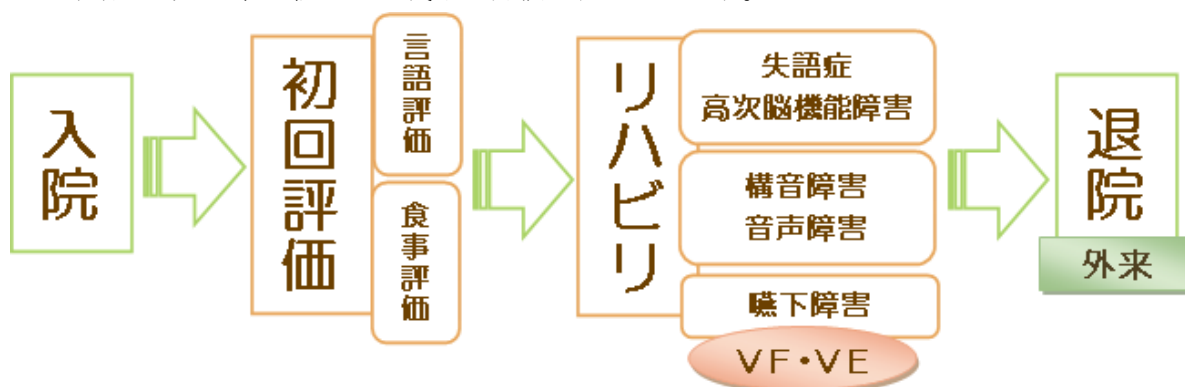
年齢



障害割合

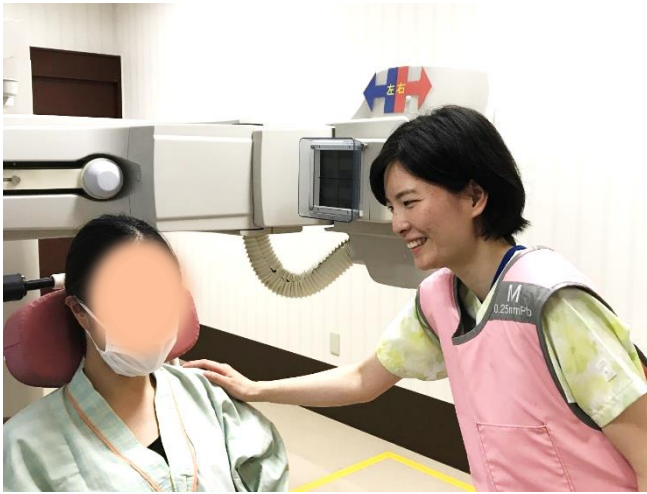
S Tの仕事

失語症や構音障害、音声障害、嚥下障害、高次脳機能障害の方のリハビリを担当しています。当院では、ご入院された患者様に対して、入院時から食事の評価を行っています。

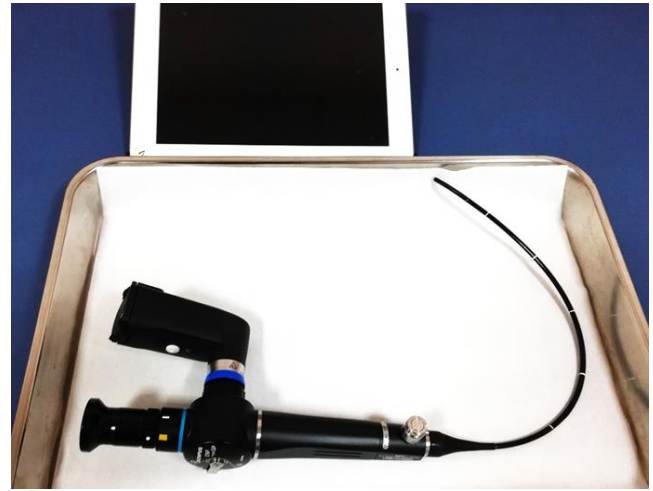


摂食機能療法

週に一度、NST／摂食・嚥下ミーティングを行っています。栄養や摂食・嚥下に問題のある患者様について、各病棟で、看護師・栄養士・言語聴覚士とで、現状や今後の方針を話し合います。



嚥下造影検査 (VF)



嚥下内視鏡検査 (VE)



NST／摂食・嚥下ミーティング



吸引研修

NST稼働施設認定病院

当院は日本静脈経腸栄養学会のNST稼働施設認定を受けています。

NSTとは、栄養サポートチームのことで、STをはじめ多職種の

専門スタッフたちが低栄養などの患者様を支援しています。



言語評価・高次脳機能評価

SLTA、SLTA-ST、SALA、失語症構文検査、抽象語理解力検査、重度失語症検査、AMSD、CAT、BADs、標準高次視知覚検査（VPTA）、標準高次動作性検査（SPTA）、RCPM、BENTON、WAIS-III（WAIS-IVに移行予定）、S-PA、WMS-R、リバーミード行動記憶検査など、失語症から高次脳機能障害（記憶・遂行・注意・失行・失認）、構音障害まで、症状の精査が行えるよう、様々な検査用具を揃えています。



検査の練習①



検査の練習②

言語訓練

エスコアールカード、Actカード、失語症ドリル集、スピーチリハビリテーション、構音ドリルブック、タブレット（iPad）など主要な教材のほか、当院で作成した教材を揃えています。



訓練の様子①



訓練の様子①

嚥下訓練機器の紹介

●バイタルスティムPLUS／ジェントルスティム／イトーPOSTIM

摂食嚥下機能の改善を目的とした機器です。低周波を利用し、摂食嚥下関連筋を電気刺激することで筋を収縮させます。

●バルーンカテーテル（食道拡張用）

食道入口部の開大が不十分な患者様に対し、食道入口部を機械的に拡張する。



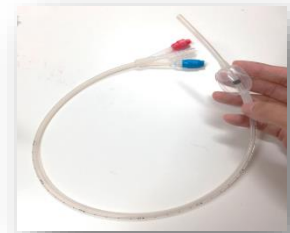
バイタルスティム



ジェントルスティム



イトーpostim



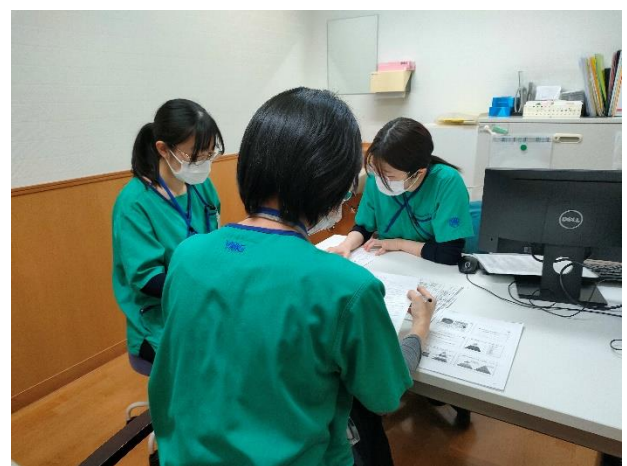
バルーンカテーテル

ST勉強会

月に2～3回程、知識向上のため、症例発表や伝達講習、抄読会等を行っています。通常の勉強会だけでなく、同年代だけの勉強会も定期的を実施し、お互いに切磋琢磨しています。



勉強会の様子①



勉強会の様子②

※2022年度 「ディサースリア認定セラピスト」取得

新人教育

●教育体制

新人セラピストに対して、バイザー（2～3年目）、アドバイザー（4～5年目）、リーダー（6年目～）がついて指導を行います。複数人がつくことによって、困ったことがあったらすぐに質問し、その場で解決できる環境になっています。また、2担当制も採用しています。

検査の方法や訓練プログラムの立案、カンファレンス用紙の書き方など、バイザー、アドバイザーらが指導し、一緒に考えていきます。



●新人研修プログラム

1年目のスタッフを対象に基本的な技術を習得するため、先輩セラピストによる講習会を半年間に渡って行っています。

2024年度新人教育プログラム

- リスク管理
- 寝返り・起き上がり
- シーティング
- 構音障害
- 半側空間無視
- 家屋改修
- トランスファー
- 座位
- 摂食・嚥下障害
- 注意障害
- 遂行機能障害
- 画像診断
- ADL評価（FIM）
- ポジショニング
- 失語症
- 記憶障害
- 自助具
- 通所リハビリ



オリエンテーション



座位

学会発表

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2010



日本言語聴覚学会 2019



日本摂食嚥下リハビリテーション学会 2019



【実績（2021年以降）】

2021年 第22回日本言語聴覚学会

「テレビ電話やLINEを使用し家族指導を行った失語症患者の一例」

「当院における失語症患者の外来リハビリテーションの現状と課題」

2023年 第24回日本言語聴覚学会

「嚥下障害を呈した廃用症候群患者の食事摂取状況・経口摂取移行に関する実態調査」

他グループ施設との交流

週に1回程度、研修や指導をかねて当院から他グループ施設（大倉山記念病院、レストア横浜、レストア川崎）を訪問しています。レストア横浜、レストア川崎では、評価や訓練を2名体制で行っています。



大倉山記念病院



レストア川崎

その他



リハビリ庭園①



リハビリ庭園②



病棟廊下



病棟個室



病棟食堂



病院受付